



こうか
まちかど特派員

まつもと みえこ
松本美恵子

地域のイベントで 自然、文化、産業を満喫

今年の秋も、市内では地域の特色を生かしたいろんな催しが行われ、多くの人で賑わったことと思います。
私の住む信楽地域でも、陶器を始め、その地域の風土や文化を生かしたいろんな催しが行われました。
今回はその中から、**案山子まつり**と**信楽陶器まつり**のひとコマをご紹介します。

10月10日から3日間「信楽陶器まつり」が3か所の会場で開催されました。

陶芸の森の「太陽の広場」には県内作家の方たちの個性あふれる作品が展示されました。作家の方と対面して、気に入ったものを交渉次第で安く買うこともできました。作家の方の世代に関係なく、愛着や意気込みを強く感じる作品が多かったのが印象に残りました。

次は信楽伝統産業会館。レンガ色の建物を入るとすぐ右側には焼き物ができるまでの工程が絵図で描かれています。信楽焼を定義する伝統的な技術と技法、使用する陶土と材質についても詳しい説明書きがあります。そして素晴らしい作品群を見ることができ、信楽焼の始まりは、天平

時代といわれています。長い歲月をかけて土と関わりを持った人たちのプライドを感じます。さらに当日は伝統工芸士の教えを受けての手づくり体験コーナーも設けられていました。

信楽支所周りには信楽焼の大量即売会場がありました。たくさんの人で賑わっていました。

焼き物は本来は種もみや茶を保存する必要から生まれ、つぼやかめからやがては日用品、茶器、花器へとなり、生活に密着しながら潤いを与えてくれるものになっています。つくった方々に感謝して使いたいと思いました。

「秋晴の陶狸の里のまつりかな」

まつりかな



▲個性豊かな作品が並ぶ陶芸の森太陽の広場



▼信楽焼を買い求める人で賑わう即売会場

10月24、25日には、田代高原の郷で案山子まつりが開催されました。ここでは、田代地区の住民



▼案山子と一緒に記念撮影

の方たちが制作されたユニークな案山子41作品を見ることができました。小高い芝生の広場には優しい表情と動きの人形が多く並びました。ユーモラスなその姿は鳥よけにならないのではありません。むしろ動物が寄ってきそうな楽しい雰囲気でした。

会場では、地域の農産物やお茶の販売、食べ物コーナーもあり、のどかでほっこりする1日となりました。

秋の行楽シーズンは、いろんなところでいろんな催しが行われます。そんな中、自分の住む地域のイベントでゆっくり楽しむのもいいものです。



◀趣向を凝らした案山子が並ぶ会場